

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791000169		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホームおばまユニット1		
所在地	二本松市下長折字藤540番地		
自己評価作成日	令和2年12月21日	評価結果市町村受理日	令和3年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年2月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着し、利用者様が日々穏やかに安心して頂けるよう、毎月の行事や地域のボランティアの方々を招いて、歌や踊りを1.2ユニット全員に鑑賞し交流をしています。職員が理念の唱和をし朝、夕の申し送りをし、全利用者様の状態把握しながら支援をしています。地域との繋がりを大切に運営推進会議や消防訓練などご協力を得てより良いホーム作りを目指しております。他施設、医療機関と連携を取り情報交換を行いながら、利用者様、ご家族様が必要なサービスを選択できるように取り組んでいる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.地域で生まれ育った利用者が多く、地域に根ざした事業所を目指し、コロナ禍により書面での運営推進会議で委員から地域情報や多様な意見をいただき、利用者が地域の中で安心して暮らせるよう取り組んでいる。  
2.コロナ禍で外出が減っているが、気分転換が図れるよう感染対策を講じ少人数で紫陽花寺や安達ヶ原ふるさと村へ出掛けた。また、短時間でも希望する家族とは面会ができるよう支援している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所前に職員間で意見を出し合い理念を掲げ、職員の目の届きやすい所へ掲示し、また毎日の申し送り時に唱和している。ホーム全体が「笑顔」になれるように取り組んでいる。	事業所開設にあたり、職員で意見を出し合い「一日一笑」の理念を作成した。理念を事業所内に掲示し、朝のミーティングで唱和ながら共有している。また、会議等で理念を確認しながらケアに反映できるよう取り組んでいる。	地域密着型のサービスの意義や役割についても職員で話し合い、理念の振り返りの際に検討してほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染拡大防止策を講じている中で、事業所が孤立しないように地域へ事業所をアピールし、終息時には、地域との付き合いが持てる様に取り組んでいる。	地域の自治会に加入している。殆どの方が地域からの利用者で職員も地域採用者が多い。横笛やオカリナなど音楽ボランティアの申し出があるが、コロナ禍のためボランティア受け入れを自粛している。地域の行事情報の収集や外出支援を行い、地域交流が持てるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの感染拡大防止策を講じている中で地域との関りが持てていない為実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	密を避けるため、事業所内での運営推進会議を実施することは困難である為資料を郵送し、各委員から郵送にて、意見を返信して頂いている。頂いた意見は運営に反映するようにしている。	コロナ禍により運営推進会議は書面で定期的開催している。利用者状況や事故・ヒヤリハット、行事予定、職員研修等について報告し、委員から書面で意見や要望をいただき、それを運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に関することや利用者様に関する事を市の担当者へ相談や報告し連携を図っている。また、介護だけではなく生活保護の担当者とも連携図り、受給者の生活支援のため連携も図っている。	市担当者や生活保護担当者等と、介護保険制度や生活に課題を抱えた利用者に関する事を相談しアドバイスをいただきながら協力関係を築いている。また、利用者状況・事業所の実情を伝え、協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には、身体拘束の研修を実施し、また、定期的に事業所内で身体拘束に関する会議を行い、身体拘束のない事業所作りをしている。	内部研修会で身体拘束の対象となる行為の共通理解を深めている。また、身体拘束等適正化委員会を定期的開催し、不適切なケアについて職員アンケートを実施しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者をはじめ職員間で、ケアの方法に関して話し合い虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいないが、今後必要性がある方のことを考え研修の機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	密を避けるため短時間で契約等を行っているが、後日疑問点などがないか、電話等にて確認している。家族等には理解と納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の関りの中で意見や要望等を聞き、家族などには、電話や来訪時に伺い運営に反映させるように努めている。	日常生活の関わりの中で、利用者の意向や思いの把握に努めている。また、家族に運営推進会議に参加していただき、意見や要望を聞く機会を設け、面会時や電話などで意見・要望を聞き、それを運営に反映するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や日々の申し送り等にて職員の意見を聞き、可能な事から反映させ、働きやすい環境作りに取り組んでいる。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを大切にし、意見や提案を出しやすい職場づくりを心がけている。朝のミーティングや各種会議で聞き取った職員の意見や提案を運営に反映するよう取り組み、職員の提案で居室トイレの手摺りの改善を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得制度や希望に応じて個人の生活状況を考えた労働時間などやりがいを持って働ける環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの感染防止策を講じている為、インターネットを活用した研修体制を取っている。インターネットを活用することで職員の時間に合わせ受講できるため多くの職員が受講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であるため法人内での交流のみにはなるが意見交換等を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の不安や要望等に耳を傾けている。不安を取り除く為、関係性を密に一緒に向き合う事で信頼関係を構築出来る様に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様と入居者様に関する情報を伝え合い、信頼関係が築き良好な関係作りが出来る様にしている。本人、家族様の意向がケアプランに反映出来る様に取り入れる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時に現状の情報を確認し、また担当ケアマネより情報提供を受け、本人が出来ない事、困っている事、心配に思うことなどを聞き取り、他のサービスも含めた支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や炊事など本人の能力に応じてできることを職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への状況報告を毎月の手紙や、体調の変化を電話にて迅速に伝えている。定期受診など協力を頂いている。衣替えなど季節に合わせて交換の協力をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通いなれたかかりつけの病院に通院でき、安心してホームでの生活が送れるようにご家族様の協力により受診できている。	コロナ禍により面会は難しくなっているが、希望する家族とは感染対策を講じ短時間で実施している。また、家族や友人と手紙や電話で関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状態に合わせ共用スペースで一緒に過ごせるように座席を考えている。将棋が楽しめるように準備をしている。動画を活用して歌や、体操などを皆さんで楽しんでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動した利用者様、ご家族様に情報提供をして別施設でもお変わりのない生活ができるように対応している。入所後の問い合わせに対しても丁寧に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の生活歴を理解し、日々の生活の中で、会話や表情、行動からの気づきにより、本人様の意向をくみ取っている。定期的にケース会議を開催しPDCAのサイクルでより良い共通のケアが提供できるように取り組んでいる。	日常生活の会話や支援の際に利用者の思いや希望を聞き逃さないようしている。困難な方は反応や表情等から本人の思いを汲み取り、職員間で意見を出し合い本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査により、今までどのような暮らしをしていたかを把握できるようにしている。本人の好みやこだわりなどは、入所後に傾聴し、相互理解ができるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック表を活用し、身体や心身の状況を常に観察し、本人が意思決定ができるように取り組んでいる。残存機能が維持できるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の踏まえてモニタリングを行いケース会議に反映できるように取り組んでいる。入居者様の現状に合った介護計画を作成している。	日常生活状況やケース記録を基にモニタリングを行い、職員会議で検討し、利用者・家族の意向を反映しながら介護計画を作成している。介護計画の見直しは、原則3か月毎に行っているが、利用者の心身状況に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の記入を個別で行っている。バイタル、食事量、排尿排便状況、本人がどのように過ごしていたかを記入している。申し送りや情報を共有し適切なケアができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的に社内訪問マッサージ、訪問散髪のサービス提供をしている。他施設への申し込みをしたいとの意向がある際は、必要書類の記入や問い合わせに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナの影響で、ボランティアの方々がホームに来ていただくことができなく地域との交流は難しかったが、本社の協力により近隣への外出ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族の意向に合わせてかかりつけ医の受診をしている。近隣の協力医療機関には体調不良の際は、受診し健康に過ごせるように協力していただいている。	入居時に医療受診について話し合いが持たれている。かかりつけ医の受診は家族の協力の基で行われているが、コロナ禍で通院は難しいため、状態の変化が見られない場合は電話対応での診察や処方箋を依頼し対応している。夜間等の急変時は、協力医の支援が受けられる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人所属の看護師が定期的に訪問して利用者様の健康アドバイスをして下さっている。電話での問い合わせにも対応して下るため安心して生活ができています。緊急搬送時には、地元消防署、病院と連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーなどの情報提供をしている。入院中は相談員の方と連携を取り、退院に向けた状況交換をしている。退院後も安心してホームに戻るように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様に重度化や終末期についての意向を確認している。症状に応じ主治医を交え、ご家族様が納得し、不安が解消できるまで話し合いをしている。本人に最もよい対応ができるように職員全員で取り組んでいる。	契約時に「終末期の看取り等について」の事前確認書に沿って、事業所として可能な内容を利用者・家族に説明し、同意を得ている。また、症状の進行に伴い、主治医より家族に病状の説明があった場合は、再度家族との相談の上、意向に沿いながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を全職員が受けている。勉強会で急変時の対応連絡手順について訓練をし緊急時に備えている。救急車要請についての注意点、付き添い時の持ち物、受け答えについても訓練して、救急時に携わった職員が対応できるように心構えをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	防災訓練を定期的に行っている。水害時は垂直避難をして助けを待つようにマニュアルができています。非常食などの備品を準備している。ハザードマップを確認して避難経路を把握している。	緊急時対応マニュアルを作成し、年2回消防署立会の避難訓練や夜間想定避難訓練・消火訓練、風水害・地震等想定防災訓練を年間計画に沿って実施している。水害時の垂直避難やハザードマップによる避難経路も確認しあっている。非常時用備蓄品としてブルーシート・携帯用ガスコンロ・水・米・缶詰・羊羹等を準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に個人に講習がありプライバシーについて理解している。本社より研修内容のお知らせがあり、リモートでの研修をホームで行っている。研修報告書の作成、スタッフ会議での伝達講習を行い秘密保持に努めている。	職員が、利用者一人ひとりの人格を尊重しプライバシーの保護に努め、言葉遣いに留意している。内部研修を多く実施し、入職時研修・リモート研修・スタッフ会議での伝達研修を行っている。個人情報関係書類は鍵付ロッカーで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定しやすい環境作りをしている。飲み物の好みや、食事量、食事時間について本人の希望に沿うように対応している。行事食、誕生会には本人の希望のメニューを取り入れている。入浴時間も話し合いをして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や、レク、体操等、利用者様のペースに合わせた生活ができるように職員が個々に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容が出来る様に声掛けしている。髭剃りは声掛けし介助している。爪切りを介助している。巻き爪や爪が厚くなっている方は、看護師が対応して清潔が保てるようにしている。好みの衣類に着替えができるように声掛けしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事形態に気を付けて対応している。トロミ粉を使用して嚥下しやすくなるように個別に対応している。簡単な野菜の下処理を職員と一緒にしている。チルド食なのでおやつで変化をつけて、季節を感じられる様に提供している。	利用者の経験を活かし職員と一緒に野菜等の下ごしらえを行い、食事と一緒に楽しく摂っている。メニューや食材の手配は、外注の業者の管理栄養士が行っている。おやつや誕生会等の行事食に利用者の好きなものを取り入れる等工夫を加え支援している。毎食前に口腔体操を行い、咀嚼や嚥下の維持・改善に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録している。水分摂取量が少ないときは、声掛けをして飲んで頂いている。好みの飲み物やゼリーなどで水分摂取ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助をしている。口腔ケアが苦手な方については、本社の歯科衛生士による口腔内観察や口腔ケアについて助言を受け実施している。口腔ケアの大切さについて職員が研修を受け取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排尿のタイミングに合わせてトイレ誘導、見守りを行っている。おむつ使用の方も時間での確認をして交換し、不快感が軽減できるように取り組んでいる。	排泄チェック表や生活習慣・表情・仕草からプライバシーに配慮したトイレへの声かけ・誘導・見守り等の支援を行い、トイレで排泄が継続出来るよう取り組んでいる。また、オムツ使用の利用者にも、時間ごとに確認・交換を行い不快感が軽減出来るよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の申し出や、トイレ掃除の際に排便の有無の確認をしている。排便チェック表を活用してできるだけ自然排便があるように水分摂取、乳製品を取り入れている。主治医の指示により下剤等を使用して排便管理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に沿いながら、体調に留意して週に2回以上の入浴ができ気持ちよく過ごすことができるように取り組んでいる。更衣室の室温に気をつけ好みの湯温で対応している。体調がすぐれないときは、清拭、更衣により清潔保持している。	入浴チェック表を参考に利用者の希望や体調を留意し、週2回以上の入浴支援を行っている。特に冬は更衣室との温度差に気をつけている。職員との会話で楽しく入浴が出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間、起床時間は個々に合わせて対応している。室内の明るさや、室温に気を付け、安眠できる環境を提供している。定期的シーツ交換をし、晴天時には布団を干し、気持ちよく寝具が使えるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬、服薬介助は2名で確認して間違いのないように対応している。処方箋を確認し、個々の薬を理解するよう取り組んでいる。わからないことがあれば、医師薬局に問い合わせをして理解して職員全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が持っている能力が継続できるように、声掛け、見守りによりテーブル拭き、新聞たたみ、洗濯たたみなどをして頂いている。入居者様、職員との談笑の中で思い出を共有し笑顔で過ごせるよう取り組んでいる。その都度、聞き取りをして好みの物が提供できるように取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年、開所時よりコロナの影響で、外出する機会が減っている。外出の際は、感染防止に注意して少人数で短時間の外出の支援をしている。季節を感じられるように、敷地内の散歩をして気分転換をして頂けるように取り組んでいる。	コロナ禍で外出が減っているため、感染対策を講じ、紫陽花寺や安達ヶ原ふるさと村へ出掛け、気分転換や楽しさを感じて貰えるよう支援している。また、短時間ではあるが敷地内を散歩し、外気浴やストレス解消が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて金銭をお預かりしている。本人より申し出がある際は、職員がお預かりしている金銭より買い物をして本人にお渡しして満足ができるように取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があった際は取次をして会話ができるように取り組んでいる。郵便やお届け物があった際は、本人に手渡しをしている。お礼の電話ができるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の動線を考え、家具の配置をしている。定期的に換気をし、温度計、湿度計を設置して快適に過ごせるようにしている。利用者様の体感に応じて快適に過ごせるように取り組んでいる。	廊下・居間・食堂に季節を感じられる花や雛飾り、利用者と職員と一緒に制作した作品が飾られている。また、ソファを設置し、落ち着いてゆったりと過ごせる環境を整備している。感染症対策として職員は朝・昼・晩に手すりの消毒を行い、温湿度や換気に心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が自分のタイミングで居室で過ごせるように、居室環境を整えている。共用部では落ち着いて気の合う方と過ごせるように、テーブルの配置や、ソファの配置をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご家族様の写真やアルバム、ホームでの写真を飾り、生活感を感じられるようにしている。室内にテレビを置き、自分の好きなタイミングで好みの番組が見れるように環境を整えている。	居室には、自宅で使い慣れたテレビ・タンス・鏡・パイプハンガー等が持ち込まれ、自分の生活の場としての環境が整えられている。また、家族の写真や人形等が飾られ心休まる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室番号や、居室扉に見える位置に名前を貼り自分の居室がわかるように取り組んでいる。症状に応じ手すりを設置し室内を安全に移動できるように環境を整備をしている。		